

まだ20代だった頃、担任していたクラスでの忘れられない思い出を書きます。

5、6年持ち上がりのクラスが特別支援学級在籍のAさんの交流学級になりました。穏やかで朗らかな笑顔のAさんと子供たちは、4年生までですでに顔見知りですぐに打ち解け合い、授業や行事など学校生活を共に2年間過ごしました。

そんな中で、6年生の5月には、修学旅行で東京ディズニーランドに行き、班活動を行いました。

「協力して仲良く」をめあてに、計画に沿って班ごと活動をすすめていた時のことでした。本部で待機役を務めていた私めがけて一つの班が慌ててやってきました。何かと話を聞くと、Aさんがパスポートをどこかでなくしてしまっていて次に行けないというのです。Aさんは、とても困った顔をしていました。とにかく、これまでのルートを戻って探してみるように話すと、子供たちは、来た道を走って戻って行きました。しばらくすると、離れたところをその班が走っているのが見えました。一番後ろを追いかける子は、どうやら泣いているようでした。その後かなりの時間が経ってから、今度は、先ほどは泣いているように見えた子が先頭に立ち、遠くから満面の笑顔と大きな声で、

「先生、あったよ～」

と、叫びながら走ってきました。子供たちは、自分たちが行った場所をあちこち探した後、スペースマウンテンにいたキャストに相談したところ、キャストがアトラクションの中を探しに行き、線路の下に半分切れて落ちていたパスポートを見つけて届けてくれたというのです。

どの子も思い切りの笑顔で、次のアトラクションに向けて全力で走って行きました。

パスポートが見つかり、それまでの時間を取り戻すべく駆けていく子供たちの後ろ姿は、実に清々しくはたつとしていました。まさに、「協力して仲良く」のめあてを達成した姿でした。いやそれどころか、そのめあてを遙かに超える価値ある姿の具現化だったと思います。

「インクルーシブ」

今の語り方で言えば、その言葉がぴたりと当てはまるように思います。Aさんは、班のメンバーのAさんであり、仲の良い友だちであり、一緒にいる存在。そんな温かでフラットな相手理解があると私には感じ取れました。その大切な仲間のAさんの困り感(同時に班としても共に抱えた困り感)を取り除くべく、最善のぎりぎりの努力を果たす姿。(もしかすると、子供の姿に感じたキャストがホスピタリティ精神でパスポートを調達してくれたのかもと、今になっては思いつつ、いずれにしても)全ての行為がAさんのために全身全霊真心込めた「合理的配慮」だったと思います。これこそ究極の「合理的配慮」の具体的な姿だったと言っても過言ではないように思います。子供の世界でこんなにも見事で力強い「インクルーシブ」が実現できたことに、改めて子供のすごさを感じます。

この度、国連から日本の障害者権利条約の履行状況の監査結果が出されました。「分離(segregation)や「後退(regress)」などの言葉で語られた厳しい監査結果に、これは、真摯に特別支援教育のあり方を見直すべき時なのかなどと思う一方で、通級指導がもたらす光明も感じています。

通級指導は、通常級を軸に特別支援教育をつなぐ「パーシャル(部分的な)インクルーシブ」を実現している立ち位置にあると思っています。例えば、本校の職員は、通級在籍児童の相手校に出向き、担任と連携して児童指導にあたる取組も行っています。このような通級指導の具体的実践の取組が「トータルインクルーシブ」につながる道へ、システムも考え方もいつの日か導いていってくれるのではないかと思います。国連が言う真のインクルーシブに向けて、通級指導にあたる全教職員の献身的で熱意溢れる実践が生きていくことを強く願っています。

(清水浜田小学校 校長 山根 法生)

清水浜田小学校さつき教室の その先に向けた取り組みから

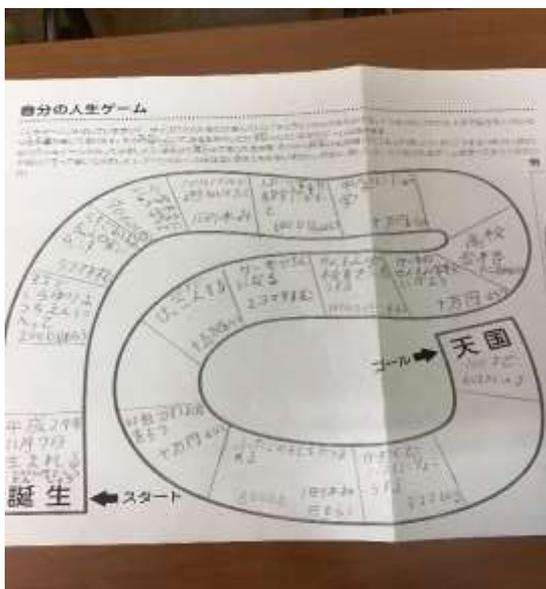
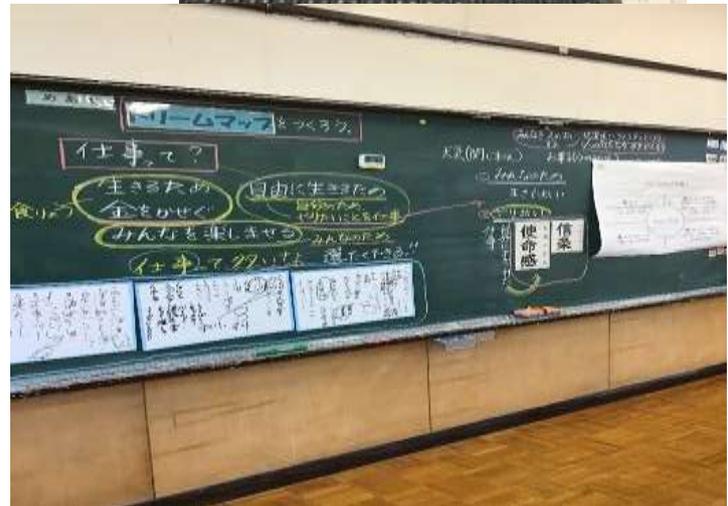
【保護者学習会】

清水浜田小学校さつき教室には、言語通級指導教室が2教室と発達通級指導教室が3教室あります。令和4年9月15日(木)、その5教室に通う児童の保護者を対象に保護者学習会をオンラインで行いました。同じ清水区の中学校通級指導教室担当 澤里 真弓先生を講師に迎え、多くの保護者が参加しました。話の内容は、・中学校通級での支援について・中学校卒業後の進路について・支援の求め方について等で、大変参考になりました。中でも印象に残っているのは、自己理解(自分の強み、苦手さを知ること)と夢や目標をもつことの大切さです。そして、通級担当者は、そんな生徒の夢や目標に対して共感できる存在でありたいということです。

私達さつき教室では、中学校通級指導教室の先生の思いとつながる活動として次のような取組をしています。

【6年生のドリームマップづくり】

発達通級指導教室の6年生は後期になるとドリームマップを作り始めます。ドリームマップとは、15年後(27・28歳)の自分をイメージしてつくる未来の地図です。「将来の夢(仕事)」「自分のほしいもの」「なりたい自分」「周りの人」「社会」についてまとめていきます。まだ自分の将来のイメージがもてない子供たちに、自分達の身の回りにある仕事にはどんなものがあるか考えさせます。私達の身の回りにはたくさんの仕事があることを知ると共に、どうして仕事をするのか、様々な仕事につく



人たちの体験談から学んでいきます。生きるため、お金をかせぐため、みんなを楽しませるため、達成感、使命感、責任感がある、みんなを笑顔にできるなど色々な意見が出てきます。そして、自分だったらどんな仕事をしたいかがみつかり、子供たちのドリームマップに向かう意欲はぐんぐん高まっていきます。



【中学生講座】

同じく発達通級指導教室の6年生は、12月下旬から3月上旬にかけて全8回程度の中学生講座を行います。この講座は、6年生が抱えている中学進学への不安を軽減し、希望を持って中学へ進学できるようにと願って始められたものです。講座では、学校の図書室に6年生とその保護者が集合し、一回あたり一人の講師(6年生が進学予定の中学の先生)をお招きしてミニ授業をさせていただいたり、学校紹介や子供たちからの質問に答えていただいたりします。講座の最後には、子供たちが感想や感謝の言葉を述べたりお手紙を書いたりします。



中学校の通級指導で大切にしている自己理解(自分の強み、苦手さを知ること)と夢や目標をもつことの大切さに小学校の通級指導も架け橋となる指導をしていきたいと思えます。そのために私達も子供たちの夢や目標に対して共感できる存在でありたいと考えています。